

飯南

い
い
な
ん

議会報

第50号
平成29年7月20日

- 02 特集 議会報50号の軌跡
- 03 6月定例会報告
可決された主な議案 陳情
一般会計補正予算
- 04 一般質問
- 10 討論 採決の結果
議会活動報告
議会全員協議会の議題
- 11 常任委員会報告
- 12 明日を拓く





今回、議会広報が新町発足以来50号発行の節目を迎えました。平成17年1月1日に誕生した飯南町の議会は、合併時の在任特別で25人の議員、その中から初代議長に那須穂土輝氏が選任され始動。同年7月の選挙で議員数は14人になりました。続く平成21年には12人、平成25年には現状の10人になりました。議長は、那須氏に続き、平成25年から難波俊司氏、平成27年から現在の小野覚議長へと繋いできました。

四季折々の豊かな顔を見せる飯南町も、「いいところ」だけでなく「暮らしやすいところ」にしなければ、人口減少に解決は見出せません。この12年間、議会は町執行部のさまざまな提案を受け、執行の採否等を審議してきました。やって良かったと思える施設建設や事業もあります。しかし、すべてそうともいえず、さらに研鑽を積み、提案力の向上の必要性を感じるところです。この広報が配布された直後に、

議会議員選挙があります。引退する議員や新人の候補者もおられるようですが、ふるさと飯南町を暮らしやすい町にするため、町民の声をしっかりと届け、執行部とは是非々々で臨める議会が求められます。



平成29年 6月定例会終わる

6月6日から16日までの11日間で開催

本年3月に制定された「農業委員会の委員及び農地利用最適化推進委員の定数を定める条例」に基づき、14人の農業委員と同人数の農地利用最適化推進委員が選任された。

農地の適切な運用が図られ農業が健全な発展を遂げられるよう委員の皆さんのご活躍を期待する。予算では、昨年に続き有害鳥獣から農地を守るため、ワイヤーメッシュ設置等への支援が拡充された。今年度は22地区で取り組まれる。

飯南高校へ県外から入学している生徒をサポートするホストファミリー制度による活動が進展している。集会所へ風呂を増築し、生徒とその家族が宿泊できるようにし、交流の拡大を図る取り組みに助成を行う。

可決された主な議案

- 条例関係 飯南町中小企業・小規模企業振興基本条例の制定など4件
- 承認 平成28年度飯南町一般会計補正予算(第8号)など5件
- 予算 平成29年度飯南町一般会計補正予算(第1号)など5件
- 諸議案 農業委員会の委員の選任など14件
平成29年度琴引フォレストパークスキー場
人口降雪機導入工事請負契約の締結など3件
- 報告 議会の委任による専決処分の報告など2件
- 議員提出議案 森林環境税(仮称)の早期創設と地方がおこなう森林整備対策の長期的安定的な財源確保を求める意見書
国道54号 赤名トンネル、晴雲トンネル改良に関する意見書

陳情

- 町区大仙町水路の改修を求める陳情
飯南町頓原2265番地 代表 町区自治区長 信藤一郎
- 審査委員会 教育経済常任委員会 採択
- 審査委員会 島根県森林組合連合会 代表理事 手銭白三郎
- 陳情者 一般社団法人 島根県森林協会 会長 速水雄一
- 一般社団法人 島根県木材協会 会長 三吉庸善
- 飯石森林組合 代表理事 組合長 立石 幸
- 教育経済常任委員会 採択
- 審査委員会 教育経済常任委員会 採択
- 町道新市赤名線の未改良区間の事業実施についての陳情
小田真木自治振興協議会 会長 安部和昭
奥真木自治会 会長 桑原 武
- 審査委員会 教育経済常任委員会 採択

【平成29年度 一般会計補正予算 698万円増額】

健康増進施設臨時管理費(加田の湯)、農作物鳥獣被害防止事業
堆肥センター臨時管理費(マニユアスプレッター導入)増額など

各会計	補正予算額	予算総額
一般会計	698万円	75億2865万円
特別会計		
簡易水道事業	△628万円	5億4825万円
下水道事業	△39万円	4億566万円
介護保険サービス事業	24万円	3266万円
飯南町病院事業	14万円	10億6363万円

一般質問

6月定例会



内藤 眞一議員

Q 業務継続計画の策定を

本町では、防災計画は整備されている。
大規模災害時に優先すべき業務等を定める業務継続計画を策定するため、県主催の研修会について新聞に掲載があった。

業務継続計画は、災害時に避難対応等の応急業務と中断できない通常業務の取り扱いについて、県の指導により研修し策定するものだが、本町での取り組み状況はどうなっているのか。



役場内の防災無線放送施設



役場庁舎に隣接するアンテナとスピーカー

A 今年度中に策定

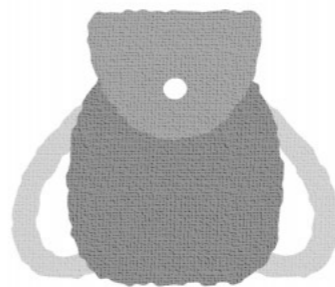
町長 山崎 英樹

地震などによる大規模災害が発生した際、地方公共団体は、災害応急対策や復旧・復興対策の主体として重要な役割を担う一方、災害時であつても継続すべき通常業務を抱えている。

非常事態にあつても業務を的確に行えるよう、業務継続計画の策定により業務の継続

性を確保しておくことが重要だ。内閣府から、その検討に必要な事項、手法をまとめた手引きが示されているが、作業量が多いことから進んでいない。

計画策定に必要な項目を定めた業務継続計画を今年度中に策定する。



一般質問

6月定例会



伊藤 好晴 議員

Q 出産支援で少子化対策

任期最後の質問である。明確な答弁を求める。

日本は、出産・育児が困難な国になっている。人口減少対策も成功していない。合計特殊出生率はわずかに改善したが、目標には大きく及ばない。

原因の一つに、出産費用の負担の大きさがあると思う。これまで医療費の無料化・保育料の減免など助成制度を導入しているが、出産への支援は薄い。

結婚・出産は個人の選択の問題ではあるが、希望が叶っていないのが現状と考える。妊娠から出産まで安心して生活できる対策を求める。UIターンだけでは少子化は解決できない。支援を提案する。

A 実態を再認識

町長 山崎 英樹

質問があつて、このような実態があることを再認識した。最後の質問で、態度を明確にということだが、今後検討したい。させていたいただきたい。



保健福祉課

Q 基礎的自治体の役割を果たせ

国保の構造的な問題点はどこにあるのかを考えると、この事態を招いた原因は、国庫支出の大幅な削減にあるといえる。保険料が払えず、保険証を取り上げられている世帯は、県内に何世帯あるか。

保険料滞納のため無保険状態になったり、治療を中断したりする。お金のあるなしで命と健康が左右されることを看過してはならない。このようなことが県一本化で解決できると思っているのか。さらなる負担増、徴収強化、給付費削減が進むことを懸念する。

国保が国民皆保険制度の基礎になっているのは、最も身近な行政単位である市町村が運営しているところにある。

最後のセーフティネット、国保の制度を持続可能なものにしていくには、国保の運営は市町村に置き、市町村が運営しやすい環境を県が作り上げていくことが求められている。

住民の命と健康を守るのは基礎的自治体である市町村で

あり、それを支えるのが県の役割と考える。この基本にたつて、今後の社会保障制度を考えていく必要があるがどう考えるか。

A しっかり取り組み

町長 山崎 英樹

問題点は財政基盤が小さいところにある。資格証は0.7%、短期証は2.8%。

一番身近な自治体として、役割分担、町としての役割を明確にし、懸念されることがないようにしっかり取り組んでいく。

【保健者資格証明書】

国民健康保険料を滞納し保健証を失った代わりに交付されるもの。受診時は全額自己負担となる。

【短期非保険者証】

国民健康保険料を滞納した場合に保健証の代わりに交付される保健証。有効期限が1〜6月



一般質問

6月定例会



長島 正一議員

Q 社会教育の推進を

少子高齢化や人口減少に歯止めがかからない。画一的に進められる地方創生に疑問が示される中、有識者は教育行政の重要性を指摘している。将来を託す若者に期待が集まる一方、若者の活動拠点であった、青年団や婦人会活動等が衰退した。若者の社会参加の機会が少なくなり、各分野でリーダー不足が起こったことが、地方衰退の要因の一つとされている。社会教育の在り方を問う。

A 若者の顔が見える町づくりを目指す

教育長 矢飼 斉

若者のリーダー不足がある。「公民館を核に社会教育の推進」を基本方針に掲げ、人材の育成や地域課題解決に取り組む。

また、地域振興に若者・女性の顔が見える町づくりを目指し、交流の促進を支援する。若者・女性で組織する団体への助成金を設ける。

参考／若者人口20代311人・30代380人



学習支援館で勉強中

Q 学校給食への「やる気」と仕組みづくりは

地産地消が推進され、多くの自治体で食育が進み、学校給食へ地元農産物の使用が進んでいるが、本町は著しく低い。今後の取り組みを問う。

A 場長を配置し取組む

教育長 矢飼 斉

地産地消に係わる食育は、地域や食文化を理解する上で、重要な教育と考える。今年度は場長を配置し、地元産受入れ対応や運営体制の整備を図り、生産者や出荷協議会へ協力を働き掛ける。



給食センター

Q 将来に向けての財政運営は

人口減少社会では、人材への投資なくしては、地域経済維持は不可能と提言されている。

また、公共施設維持管理の在り方は、将来を見越し整理計画を町民に示し理解を得ることが大事だ。考えを問う。

A 町民の協力を得進める

町長 山崎 英樹

平成28年度では86人の減少となり、福祉現場では人手不足から受け入れ定員を減らす現実がある。人口減少社会における様々な課題に向け、地域包括ケアなどの仕組みを確立し問題解決に努める。

また、公共施設維持管理は財政運営に及ぼす影響が大きい。施設の集約化、有効活用、廃止譲渡等、町民の協力を得ながら方向付けを行い、健全な財政運営に努めていく。

一般質問

6月定例会



門 眞一郎 議員

Q 飼い猫の不妊手術に助成を

浜田市が、本年度から飼い猫及び野良猫に対する不妊、去勢手術にかかる費用の助成を始めた。目的は野良猫の増加防止や動物愛護の機運醸成だ。

本町は飯南町動物の愛護及び管理に関する条例を制定し、この目的を達成するために必要な施策を講ずるとしている。生命地域を標榜する本町であるから、動物愛護の機運醸成を図り、捨てられたり処分されるペットをなくすことは重要だ。猫の不妊、去勢手術に助成を行うよう提案する。



A 自己責任で行うべき

町長 山崎 英樹

浜田市は、1匹当たり5000円を上限として助成されている。申請状況は5月末現在で42匹。

動物は、飼い主が最後まで責任をもって飼うことが原則で、愛情をもって適切に飼養しなくてはならない。動物愛護の機運醸成は、町民あげて努めなければならないと思う。

Q ケーブルテレビもっと活用を

本町のCATV普及率はほぼ100%であり、平成30年度に全線光ケーブル化する計画だ。これにより情報の通信速度や画像の品位が飛躍的に向上する。

この施設の能力を生かし、さらに手厚い住民サービスに努めなければならない。そのため、町民の皆さんによる検討委員会を設置すべきだ。

雲南市など県内だけでなく、広島県のケーブルテレビと連携し、情報交換してはどうか。平成32年から大学入試制度が変更され、英語の民間資格試験の成績が評価される。CATVを通じて、学習支援館の英語授業を行い、語学力の向上を図ってはどうか。



編集操作中のCATVスタッフ

A 今後の課題だ

町長 山崎 英樹

ケーブルテレビの自主番組放送、いいなん情報箱・雲南情報NOWは4月から雲南市、飯南町で相互に放送されている。

飯南高校情報箱は雲南市で見ることが出来るようになっており、高校への入学生の確保につながるものと期待している。

県外への情報発信はインターネットによる方法しかないが、今後の検討材料としたい。

A 検討すべき内容が多い

教育長 矢飼 斉

ケーブルテレビを活用した家庭学習支援は、双方向通信環境や既存の放送番組との差別化など、検討すべき内容がある。いいなん局・学習支援館と学校も含め協議をしながら検討する。

一般質問

6月定例会



早樋 徹雄 議員

Q iまるシエの 今後は

iまるシエは、平成25年10月30日に三次市でオープンし、最低売上目標は6000万円の計画であった。
指定管理者の有限責任組合 飯南パートナーズの運営で、施設全体の総売上高は平成26年度3140万円、平成27年度3100万円、平成28年度は2400万円となっている。現在は売上げ目標の4割と、目標にはほど遠い状況である。売上が伸びないことから、飯南パートナーズの営業収益

は500万円前後で推移しており、厳しい経営状況になっている。
指定管理など施設運営にかかる町の支出は、平成27年度決算では管理料660万円、集出荷補助金300万円、施設の電気料200万円など、合計で1千万円を超える負担となっており、この状況は続くと思われる。
撤退も含めた抜本的な対策が急がれると思うが、町長はどう考えるか。



三次市にあるiまるシエ

A 整理し努力を 続ける

町長 山崎 英樹

この施設は、第1次総合振興計画の後期に掲げ、広島市へアンテナショップを設置検討していたが、適当な物件が無いなどにより計画が進まなかった。
ショップिंगセンター「ゆめマート」の新規店舗設置にあわせ、本町も出店し運営をしている。
運営の状況については、冬の時期に野菜を始めとした商品が並ばないことなどから、来店者も減少して、この状況



売り場スペースには商品がないことも

が続いている。
議員から、撤退も含めた抜本的な対策が急がれるとのご指摘だが、私としても深く受け止める。この状況であれば、撤退についても、時期を見誤ることなく決断することは大変大切なことと思っている。
本施設は過疎債を使っており、今の時期、廃止して繰上げ償還を行うことは得策ではないと考える。これまでの取り組みを踏まえ、もう少し整理し、努力を続けたい。

一般質問

6月定例会



高橋 英次 議員

Q 閉鎖施設の 管理者は

「憩いの郷きぬかけ」北側に隣接し、今は閉鎖されている商業施設があるが、この建物の現在の管理者は誰か。

A 現在は 存在しない

町長 山崎 英樹

以前の管理者は「協同組合 大田ショッピングセンター」であったが、平成23年に松江地方裁判所に自己破産し、実態のない法人となっている。破産手続きは平成24年に終了し、管理者が存在しない状況である。

Q 危険度の 認識はあるか

国道側からは確認できないが、東側から見ると、この看板部材の一部破損や壁材の剥落、建物入口階段のタイルの散乱など、大変危険な状況であると思う。

町として、建物の危険度はどのように認識しているか。

A 安全な建物 ではない

町長 山崎 英樹

建物上部の看板の一部破損は、国道側からしか見ておらず承知していなかった。町内に目を配る立場から大変申し訳ない。
看板や壁面の破損、タイルの剥落など危険性はあると思う。

町として調査を行ったものではないが、安全な建物ではないという認識はある。

Q 利用度高い地点 との認識を

建物周辺には多くの観光施設があり、多くの来客に楽しんでいただいている。特に5月のぼたん祭り、7月の半夏祭りには大変多くの方々が来られている。

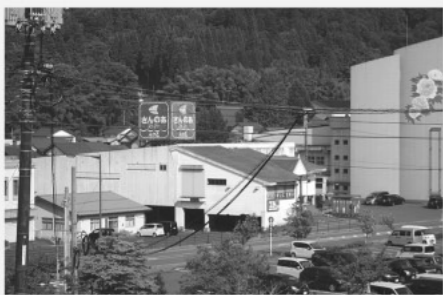
また、建物の横には新しく生活路線バスの停留所が整備され、雨や風、雪などをしのぐことが出来るようになり、乗降者の皆さんには安心して利用していただいている。
これらの現状を踏まえ、町としてどのように認識しているのか再度問う。

A 小さな拠点作り と平行して

町長 山崎 英樹

指摘のとおり、このエリアは赤名地区の中心地である。観光面や生活のよりどころ、拠点として大切なゾーンであり、飯南町の顔となるエリアだと思っている。
この建物が有休施設になっていることに憂慮している。危険性を含め調べたいが難しい。

現在、各地区の「小さな拠点」づくりをすすめている、そのなかで、新たな施設にするか、今ある施設をどうするのかを含め検討したい。



町の一等地にある旧さんのあ



旧さんのあに隣接したバス停

教育経済常任委員会

委員長 長島 正一

平成28年度 飯南町一般会計補正予算

園芸振興対策事業 118万円減額

iまるシェの集荷312日を194日(週3日)に変更したため。

運営について、「早急に撤退を含め抜本的対策を講じるべき」と指摘した。

撤退については、これまでの経過を踏まえた上で、判断するとの説明があった。



教育委員会

平成29年度 飯南町一般会計補正予算

農作物鳥獣被害防止事業 889万円

交付金増額により2,003万円に増額し、22地区で取り組む。

事業の周知が不十分であり、周知徹底を図るよう求めた。

ワイヤーメッシュ等の管理徹底やジビエの活用を図るよう指摘した。

堆肥センター臨時管理費 3,094万円

堆肥センター改修工事費1,032万円とマニアスプレッダー等備品購入費1,970万円を増額し、良質堆肥製造及び散布体制を図る。

酪農家などからの搬入量は年10,000トンが想定されているが、堆肥センターの処理能力は年3,000トンで大きく超えている。堆肥センターの在り方に、抜本的検討を求めた。

地域振興費 180万円

宝くじ助成事業による三日市集会所の施設整備費130万円と協働のまちづくり助成事業による飯南神楽団の新演目作成費50万円の追加予算。

いずれも全額助成事業であり、地域の活性化のために積極的活用を求めた。



総務委員会

総務厚生常任委員会

委員長 早樋 徹雄

平成29年度 飯南町一般会計補正予算

自治振興費 90万円

板屋谷集会所(上赤名)と和田公民館(小田)の増築・改修助成は、飯南高校の県外生が安心して高校生活を送ることが出来るよう、地域が生徒をサポートする飯南町版「ホストファミリー制度」に自治会が登録し、交流の拡大を図るため、集会所を改修する予算。

ホストファミリーとして、自治会など組織登録が増えるよう改修補助金制度の充実を求めた。

保健施設費 130万円追加

加田の湯の衛生管理上の課題解消のため、ひのき風呂を岩風呂に改修する追加予算。

改修の際利用者に影響が生じないよう求めた。

賛成討論 長島 正一 議員
急速に山の荒廃が進んできたため、島根県は森づくり税を創設し森づくり事業に取り組んでいく。

反対討論 伊藤 好晴 議員
森林を破壊した大企業などの責任を問わず、国民に広く課税する税制は、収入や年金が減る一方で負担がふえるばかりだ。この度の陳情は法律の創設を求めており、島根県では「水と緑の森づくり税」と併せての徴収となり二重課税になる。

森林環境税(仮称)の早期創設の実現を要望する意見書の提出

【6月定例会】

全33議案のうち、反対等があった議案の採決結果は次のとおりです。

件名	結果	難波俊司	伊藤好晴	永井章	長島正一	門真一郎	熊谷兼樹	内藤真一	早樋徹雄	高橋英次
平成29年度琴引フォレストパークスキー場人工降雪機導入工事請負契約の締結	可決	○	●	○	○	○	○	○	○	○

陳情の採決結果

森林環境税(仮称)の早期創設の実現	採択	○	●	○	○	○	○	○	○	○
-------------------	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---

発議の採決結果

森林環境税(仮称)の早期創設と地方がおこなう森林整備対策の長期的安定的な財源確保を求める意見書(案)の提出	可決	○	●	○	○	○	○	○	○	○
---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---

○賛成 ●反対 ×欠席議員

議会活動報告 [4月~6月]

- 4** 4日 議会広報編集委員会:委員会報告、紙面校正作業
新人管理職・新入職員顔合わせ
6日 議会広報編集委員会:紙面校正作業

- 5** 24日 議会全員協議会
25日 一期生議員研修会
26日 雲南広域連合議会運営委員会
雲南地域議会議長連絡会
30~31日 全国議長・副議長研修会

- 6** 2日 議会運営委員会:6月定例会
6日 :本会議、町長提出議案の説明、質疑、委員会付託
12日 :本会議、一般質問
13日 :委員会審査
14日 :委員会審査
15日 :委員会審査、予算特別委員会審査
16日 6月定例議会 :本会議、討論、採決・議会全員協議会
20日 雲南市・飯南町事務組合例月監査
議会広報編集委員会:一般質問要約作業
22日 雲南市飯南町事務組合議会定例会
議会広報編集委員会:委員長報告等要約作業
27日 雲南広域連合議会
議会広報編集委員会:紙面校正作業

議会全員協議会の議題

- 5月24日**
①防災行政無線の整備
②頓原拠点複合施設の竣工
③道の駅赤来高原を拠点とした自動運転サービス実証実験計画
④ふるさとワーキングホリデー事業採択
⑤飯南町人材確保支援センター設立
⑥ふるさと納税返礼品
⑦来島拠点複合施設建設に係る検討委員会の設置
⑧加田の湯におけるレジオネラ菌の発生への対応
⑨こころの健康相談日開設
⑩社会資本整備交付金
⑪町立図書館の運営体制の変更
⑫役場事務分掌等

- 6月16日**
①飯南町空き家等対策計画
②飯南町議会議員選挙
③笑顔あふれるまちづくり座談会の開催
④来島拠点複合施設建設検討委員会
⑤後期高齢者医療制度保険料の軽減判定誤りに伴う対応
⑥第11回全国和牛能力共進会
⑦飯南町、マリエ・やしろ(株)、(株)ラウ、台湾プライダルフトチーム Loove 3社1町連携提携
⑧やまなみ街道クライムライド2017開催

若者が育つ町づくりを

飯南町初代議長 那須 穂士輝さん

議会報発行50号を記念し、新飯南町発足から13年を顧みて、合併の当時議長であった那須さんにお話を伺いました。

今、議会に思うことは

時代の趨勢に対応できるような、若い議員や女性議員が誕生することが求められる。

議会基本条例が策定中と聞いている。これの施行には、大いに期待もてる。これにより、住民との距離が縮まるのではないかと、そんな議会人になってもらいたい。

集落の会議に出席した時などで発言の機会を得て、議会の報告をするとか、機会あるごと

明日を拓く



に住民との対話を大切にしてほしい。

多くの局面に臨まれて

一番印象に残ったことは

サブ口島根は忘れることが出来ない。自生している笹を採取して出荷し、これを加工することで商品化する仕組みは素晴らしいと感じていた。しかし、操業に当たり、顧客の安定化が見えなかった。

サブ口島根の設立、先行投資、先行資材の発注、出資金の還付不能など、行政、企業、取引先の中に入って公平な立場での調整に苦慮した。寝不足の日が続ぎ、東京へ行ったり来たり、一番つらい思い出だ。

飯南町に期待することは

職員の活気を取り戻さなくてはいいけない。

意欲のあるーターン者には



那須さん

支援しつつ、ーターンが促進される施策を講じて、若者が育つ町づくりに努めてほしい。

本気で當農やっている組織を、もっと育てていかなければならない。

少子・高齢化問題、儲からない農業問題もある。これらの対応が急務だ。もっと知恵を絞るべきと考える。

若者に活気を沸かせる制度、つまりU・ーターンいずれの若者達とも議員が虚心坦懐に意見交換し、将来に望ましい飯南町づくりに会を重ねてはどうだろう。

今月の表紙写真



新庁舎の議場での議会には、襟を正して臨む雰囲気を感じられます。ケーブルテレビで家庭に議会中継されるようになり、いずこの議会も「品格」を意識するようになったといえます。また、傍聴者だけでなく、テレビでも観られているので、一般質問もよく精査して登壇することが求められます。執行部が示す町運営の方向に、町民の代表として責任ある判断を行う議会議員の責務は、重にして大なるものがあります。

編集後記

梅雨の時期になった今も雨は少なく、天候の異変による農作物の生育が心配されます。

そうしたなか、飯南町議会議員として任期最後の議会となる6月定例会が6月16日閉会しました。10人の議員がこの4年間、町民の皆さんの「安心・安全な暮らし」を守るために互いに切磋琢磨し、議会活動や議員活動に励んでまいりました。

議会報では、そうした議会活動や町行政の内容を、町民の皆さんに「見やすく・分かりやすく」お伝えできるよう、議会広報編集委員全員で努力し、編集してまいりました。読まれてご理解いただけましたら幸いです。4年間のご支援ご協力ありがとうございました。

議会広報編集委員会 高橋 英次

